

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 7月 24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3272200621		
法人名	社会福祉法人 高田会		
事業所名	グループホーム みのりの家		
所在地	島根県隠岐郡隠岐ノ島町都万2472-3 (電話) 08512-6-2626		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年6月23日	評価確定日	平成20年9月24日

## 【情報提供票より】(20年5月31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算 7人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て		造り
	1階建ての	1階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当た		円

## (4) 利用者の概要(5月31日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	4名	要介護2	3名
要介護3	1名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	1名
年齢	平均 84歳	最低 64歳	最高 94歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	隠岐の島町国民健康保険 都万診療所
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海や山の自然に囲まれた場所にあり、木造づくりで明るく天井の高い、広々とした共有空間を持ったホームである。生まれ育ったこの地での生活の延長として、利用者の居室には「屋号」がかかげられている。これまでの想いを変えることなく、ゆったりとした気持ちで安心して生活を楽しんでもらえる事を第一に考えて、職員は「さりげなくごく自然に」を大切に支援している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ①「わかりやすい理念や啓発」は明文化され、地域にも発信されている。②「介護計画」は1ヶ月ごとに見直されている。③「同業者との交流」「重度化・終末化について」は、さらに課題として検討している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 自己評価票を職員全員に配布し、記入してもらい管理者がまとめた。問題点や改善点などについて十分な話し合いにはなっていない。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催されており、諸行事、外部評価、防災関係、ホームの概況などが報告されている。地域の老人会の訪問があるなど、少しずつ会議の成果が現れてきている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 日ごろの面会の時に意見・要望を聞くようにしている。遠方の方には電話や便りを出し、意見を出してもらいやすい関係づくりを心がけている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の文化祭に利用者の作品を展示したり、諸行事や産直市に出かけたりしている。法人施設内の交流から地域の老人会へと交流の幅も広がっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で暮らすことが出来る支援を目指して、全職員で見直しがなされ、具体的にわかりやすい理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議、カンファレンス、日々の話し合いの中で共有化に努めている。理念方針が目につきやすい位置に掲示されて確認しながら支援している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の避難場所になっている。主に法人内の行事や交流会に参加しているが、地域との交流も始まっている。	○	さらにホーム独自に地域との触れ合いの場を持たれるよう期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については運営推進会議に報告し、意見をもらっている。自己評価は全職員で意義を理解しながら行ってきた。計画的な改善までには至っていない。	○	改善に向け、全職員で計画的に取り組んで頂きたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。行事予定、利用者の様子などの活動状況、外部評価の結果報告、時期に応じた議題で意見交換がなされサービスの向上に活かしている。	○	管理者だけでなく職員も積極的に参加し、意見交換をしあいながら全職員でサービスの向上に努めてほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は町の指定管理者制度で運営されている。日常的に相談や意見交換などの連携を図り共にサービスの向上に努力している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時をはじめ、遠方の家族には頻繁に電話で報告している。利用者が直接電話される機会も多く、取次ぎの際に近況報告や相談をしている。3ヶ月ごとに法人の便りと一緒に写真を郵送している。	○	ホーム独自の便りの発行等を検討していただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や意見箱で苦情・要望・意見を聞いている。本年度の目標に家族会の設立を考えている。	○	家族同士の意見交換の場を作られることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの関係が保たれるよう、異動、離職がないよう心がけている。地域出身の職員で気心もわかり、関係も良好である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で人材育成を目的として研修が行われ全員参加している。管理者は外部研修に職員を出来るだけ参加させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は老人福祉施設協議会や関連の研修会などに参加したり、町内の介護福祉施設との交流の機会を設けて、質の向上に努めている。同業者間の交流は課題となっている。	○	同業者間の交流の実現に期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の見学、面談を大切にし本人の状況を把握理解している。「今、何が必要なのか」職員や家族がしっかりと協力しながら、利用者が納得した上でサービスを開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや希望に沿いながら、「今出来る事」で、共に教わり、教えあう関係を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動の中から本人の思いや意向を把握するよう心がけている。気になる時は部屋に行き様子を見たりして、ゆったりと時間を取って把握するようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見・要望を確認しながら、職員全員でアセスメントを含め、モニタリング、カンファレンスを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、家族と話し合い現状にあった介護計画の見直しを行い、変化があれば随時見直している。月に1回は職員会議で話し合っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の車も購入し利用者の受診や墓参りなどの要望に応じている。医療連携体制加算を取り早期退院など多機能性を活かした柔軟な支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。協力診療所とは日頃から何でも相談できる関係ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	地域の医療状況はさまざまな問題がある。重度化や終末期のケア対応の指針について、最良な支援が出来るよう家族、主治医、職員で準備・検討している。	○	良い方向に向けて引き続き対応を共有していただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はさりげなく声をかけたり、歯磨きや手洗い、トイレの誘導をしている。言葉かけや対応もゆったりとしている。記録もきちんと保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、利用者一人ひとりのペースにあわせそれぞれ希望に沿って散歩に出たり日向ぼっこする等、ゆったりとした生活ができるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の盛り付けや配膳をしたり後片付けをしている。職員と共にテーブルを囲んで和やかに食事を楽しんでいる。	○	現在1名は検食であるが、同じ食事をみんなで摂れるように望みたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能であるが、利用者の状況に合わせて1日に3～4名の入浴となっている。	○	利用者の希望を引き出しながら、毎日入浴可能な体制を作られるよう望みたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な分野（民謡、たも作り、大工）や楽しみを把握しており、生活の中で能力や知恵を活かす場面、活躍の場を提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出を大切にしている。玄関掃除やごみ捨て、草取り、近所の商店の買い物などを通して散歩にさそい、戸外に出かけられるように支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠し、日中の出入りは自由である。職員は利用者一人ひとりの動向を理解しており、安全面に配慮しながら支援している。地域でのサポート体制も出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成されており、法人としての年2回の防災訓練のほか、独自に避難・通報訓練も実施している	○	備蓄に対する対策をさらに検討していただきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取を記録し、全職員が情報を共有している。利用者一人ひとりの状態や体調に合わせて支援している。法人内の管理栄養士から定期的にアドバイスをもらっている。		
<b>し</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間には畳のスペースやソファ、イスが置かれていて、利用者が居心地良く過ごせるように配慮されている。季節の花が生けられ、壁には飾りつけがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせて、使い慣れた家具や神棚、小型冷蔵庫、観葉植物などが持ち込まれている。家族の写真や自分の作品も飾られ、広くてゆったりとした居心地のよい居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。